

『文化財と技術』

第7号

＜特集 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり＞

- 第一部 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり
- 鈴木勉 三角縁神獸鏡製作地論と古墳時代研究
- 前田亮 技術と継承 ―その繋がり―
- 福井卓造・鈴木勉 ヤマト王権と地域王権の確執
―遅らされた技術移転「冶鉄技術」―
- 上栴武 岡山県猿喰池製鉄遺跡の製鉄炉と技術継承論
- 李東冠・武末純一 百済の鉄と製鋼技術に関する試論
―梯形鑄造鉄斧を中心に―
- 金跳咏 東北アジアにおける鉄器文化の到来と限冶供鉄政策
- 鈴木勉・金跳咏 新山古墳・大成洞古墳群 88号墳出土
金銅製帯金具などの円文たがね
- 第二部 古代東アジアの装飾技術
- 沢田むつ代 古墳出土の鉄刀と鉄劍の
柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例
- 金字大 新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷
- 李漢祥 皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地
- 金跳咏・鈴木勉 皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について
- 鈴木勉 朝鮮半島三国時代の彫金技術 その15～19
- その15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々子文
―藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて―
- その16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは
- その17 李漢祥「陝川玉田 M3号墳龍鳳紋大刀の
環部製作工程」への批判
- その18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1号出土大刀のうろこ文の打ち出し
- その19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1号墳出土飾履の
製作技術の疑問
- 第三部 復元研究報告
- 鈴木勉 群馬県山王金冠塚金銅製冠の復元 4～6
- 4 新羅の出字形冠 その2
- 5 林堂洞7A号墳金銅製冠
- 6 林堂洞7C号墳金銅製冠
- ＜付録＞
- 鈴木勉 三角縁神獸鏡の仕上げ加工痕と製作体制
(『河上邦彦古稀記念論集』2015年より転載)

『文化財と技術』第7号 目次

<特集 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり>

第一部 ヤマト王権と地域王権／技術の繋がり

三角縁神獸鏡製作地論と古墳時代研究	鈴木 勉	5
技術と継承 ―その繋がり―	前田 亮	10
ヤマト王権と地域王権の確執 ―遅らされた技術移転「冶鉄技術」―	福井卓造・鈴木勉	32
岡山県猿喰池製鉄遺跡の製鉄炉と技術継承論	上 梶 武	40
百済の鉄と製鋼技術に関する試論 ―梯形鑄造鉄斧を中心に―	李東冠・武末純一	63
東北アジアにおける鉄器文化の到来と限冶供鉄政策	金 跳 咏	78
新山古墳・大成洞古墳群 88 号墳出土 金銅製帯金具などの円文たがね	鈴木勉・金跳咏	101

第二部 古代東アジアの装飾技術

古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例	沢田むつ代	111
新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷	金 宇 大	143
皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地	李 漢 祥	180
皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について	金跳咏・鈴木勉	197
朝鮮半島三国時代の彫金技術 その 15～19	鈴木 勉	205
その 15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々字文 ―藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて―		
その 16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは		
その 17 李漢祥「陝川玉田 M3 号墳龍鳳紋大刀の環部製作工程」への批判		
その 18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 号出土大刀のうろこ文の打ち出し		
その 19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1 号墳出土飾履の製作技術の疑問		

第三部 復元研究報告

群馬県山王金冠塚金銅製冠の復元 4～6	鈴木 勉	223
4 新羅の出字形冠 その 2		
5 林堂洞 7 A 号墳金銅製冠		
6 林堂洞 7 C 号墳金銅製冠		

<付録>

三角縁神獸鏡の仕上げ加工痕と製作体制 (『河上邦彦古稀記念論集』2015 年より転載)	鈴木 勉	233
--	------	-----

第二部 古代東アジアの装飾技術

古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例	沢田むつ代	111
新羅における垂飾付耳飾の系統と変遷	金宇大	143
皇南大塚北墳嵌玉腕輪の製作工程と製作地	李漢祥	180
皇南大塚北墳出土「夫人帯」銘銀製帯金具の線彫り技術について	金跳咏・鈴木勉	197
朝鮮半島三国時代の彫金技術 その15～19	鈴木勉	205
その15 国立慶州博物館・菊隠 collection 大刀の双連珠凸魚々子文 －藤ノ木古墳出土鞍金具の出自を求めて－		205
その16 天安龍院里出土龍文環頭大刀の金板圧着技法とは		208
その17 李漢祥「陝川玉田 M3 号墳龍鳳紋大刀の環部製作工程」への批判		210
その18 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 号出土大刀のうろこ文の打ち出し		214
その19 全北高敞郡雅山面鳳德里古墳群 1 号墳出土飾履の製作技術の疑問		217

慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 號の大刀のうろこ文の打ち出し

鈴木 勉

<根岸塾塾生からの質問>

鈴木勉先生

お元気ですか。もう夏も過ぎ去りましたね。

最近うろこ鑿を作ってみました。作る方法は図1に示しました。慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 號出土大刀のうろこ文は図2, 3, 4です。

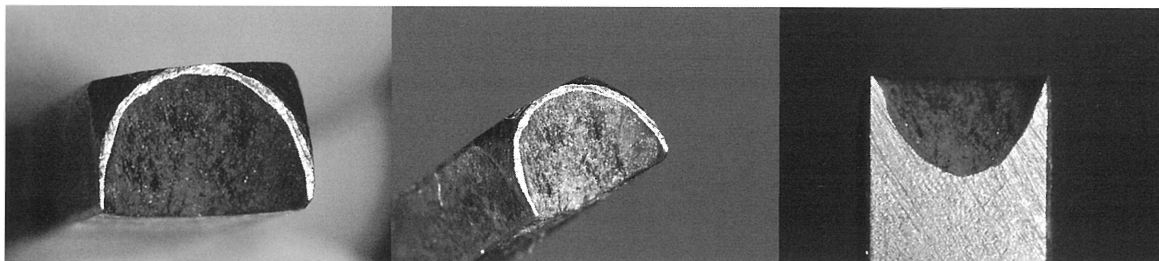


図1 たがねの正面にうろこを描く→不要な部分をヤスリで削る→うろこ文の内側をヤスリで削る



図2, 3 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 號出土大刀のうろこ文

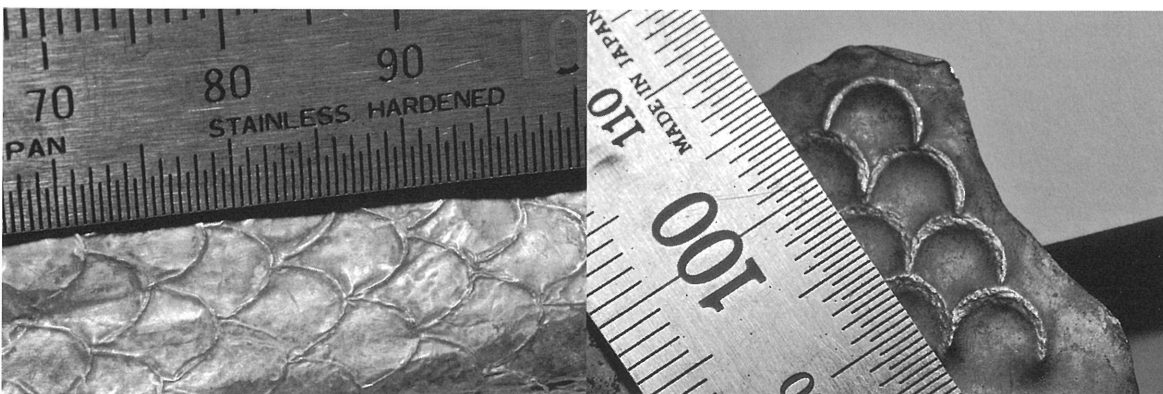
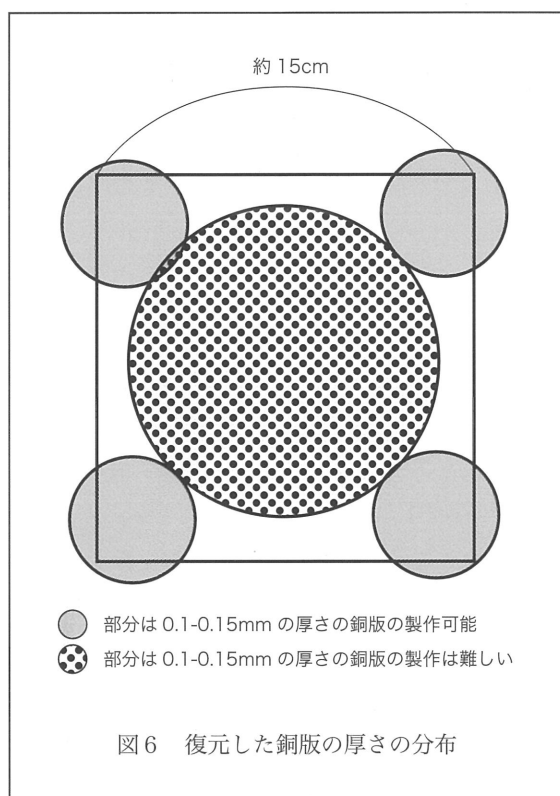


図4 慶尙南道 咸陽郡 白川里 1 號出土大刀のうろこ文

図5 復元品のうろこ文

出土品は銀板ですが、実験では銅で作りました(図5)。問題はないですか？

銅板作りは、焼き鈍してから叩きます。これを繰り返して薄くして行きました。でも、復元品は出土品とは全然違いますね。その原因は、「板の厚さ」だと思います。出土品は0.1-0.15mmの厚さですが、復元品はそれよりも厚いからです、二つの結果は全く違うことになったと考えます。



銅板の叩き方ですが、0.1-0.15mmの厚さの銅板にするのはとても難しいですね。(図6参照)

二つの違いは、復元品でうろこ文を作る時は一度の打撃でなく何度も打撃するからだと考えます。出土品のうろこ文は板が薄くて一度の打撃だと見えます。

何が問題なのでしょう？

<解説1 うろこ文工具>

とても良い再現実験ですね。うろこ文は、10年くらい前に依田香桃美さんが作っている¹ので、そのうろこ文工具の写真(図7)を示します。依田さんが作ったうろこ文工具は、薄い鉄板を丸めて木製の柄に差し込んで作っています。そして依田さんは工具をハンマで打つのではなく、右手に工具を持って銅板に押し込んでいます。「押し込む」の意味はわかりますか？金槌を使わないで、右手で魚鱗文工具を持ち、その右手で薄い銀板にpushするのです。

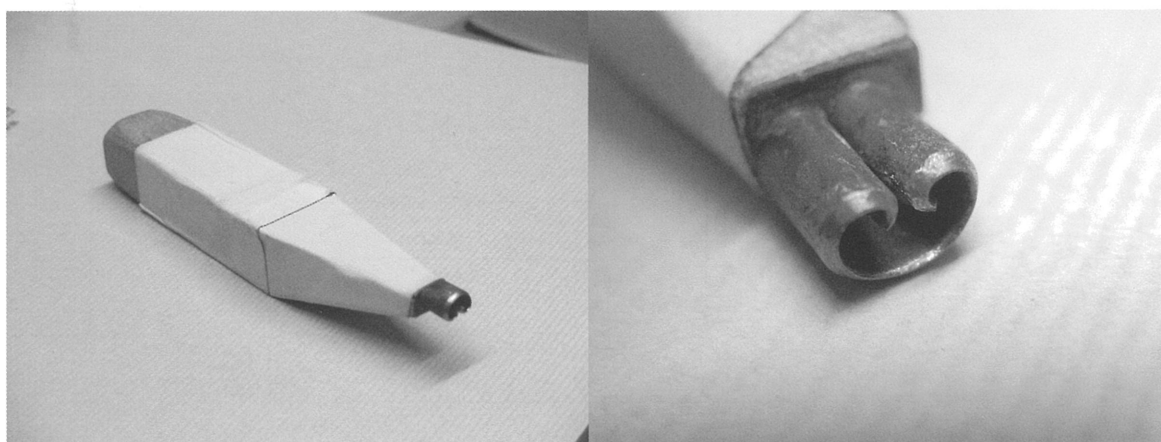


図7 うろこ文工具(依田香桃美氏制作)

出土品のうろこ文は、とても細いですね。うろこ文工具の先端が細く鋭いからです。うろこ文工具の先端が細く鋭い場合、打撃すると銀板が切れてしまう可能性があります。だから依田さんは「押し込み」にしたのです(図8)。

1 依田氏が作ったうろこ文工具は、鈴木勉2002「金銅製品」『季刊考古学 特集 実験考古学の現在と未来』第81号の図4に紹介した(61頁)。

<解説2 銅板の作り方>

銀板（または銅板）を薄く作るのはとても難しいですね。根岸塾では平らな定盤の上で先端に少しだけ丸みを付けた金槌で叩きましたね。銀板の中心部を薄く作るには、金床を図9のように丸く加工すると良いでしょう。古代の人々も同じ厚さにするのに大分苦勞したようです。以前工芸文化研究所で復元した奈良県五條市の山代忌寸墓誌の出土品の銅板は、図6の銅板と同じように端部へ行くほど薄くなっていました。古代の工人は、現代人のように同じ厚さにすることにこだわりが無かったとも考えられます。現代人は金属板というのは均一に同じ厚さだと思っているようですが、これは機械加工された金属板を毎日見ているからでしょう。古代人は「金属板は中央部が厚いのだ」と思っていたのかもしれない。

再現実験は、銀板でも銅板でも大丈夫です。

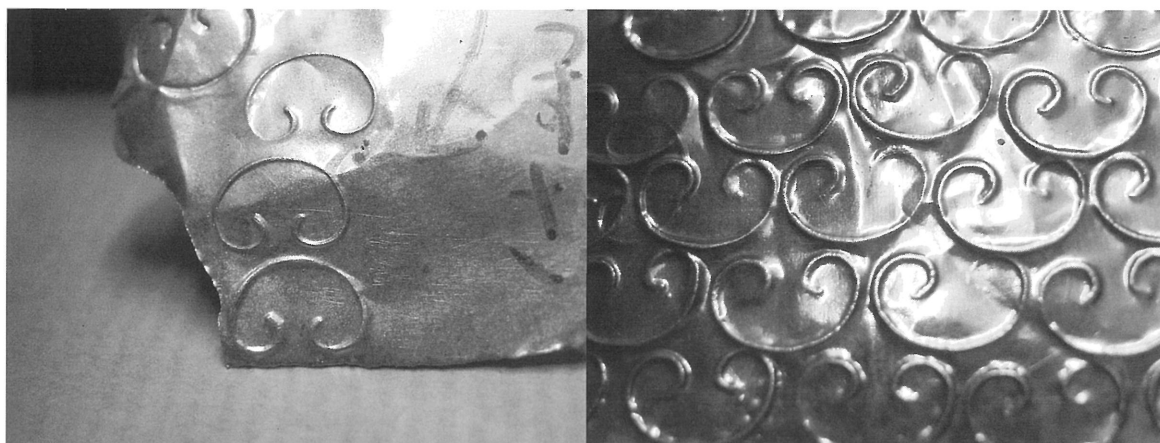


図8 依田さんが押し込み技法で作った鱗文（銀板）

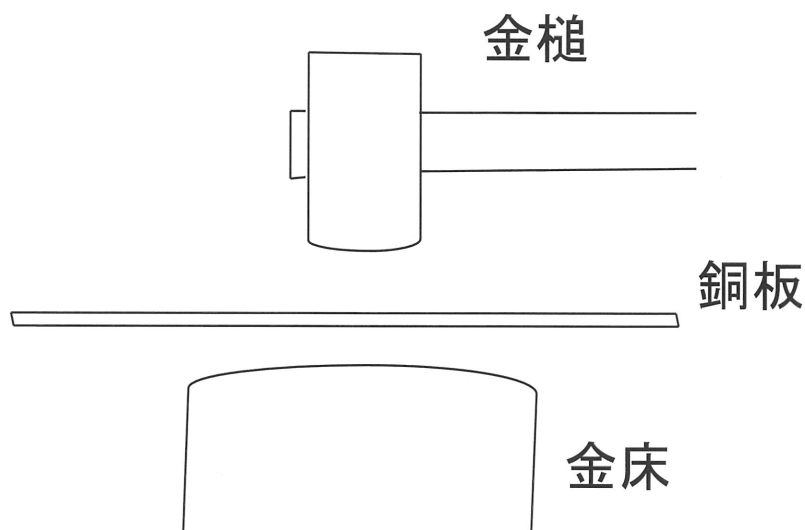


図9 金床と銀板と金槌の関係

文化財と技術 第7号

2015年12月1日 印刷

2015年12月1日 発行

編集 鈴木 勉
発行 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
発行所 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印刷 千葉刑務所
千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)